

2024年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

【記：山口県医師会副会長／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

昨シーズン花粉飛散総数は、スギが平年値（直近10年間の平均値）3,050個/cm²に対し6,430個/cm²、ヒノキも平年値1,680個/cm²に対し4,696個/cm²で、スギ、ヒノキともに平年値を大きく上回り、これまでで最多となりました（図1）。その結果、今シーズンを迎えての平年値は、スギが3,260個/cm²（図2）、ヒノキは1,920個/cm²となります。

今シーズンの定点木の観察では、スギは昨シーズンに比べてかなり少ない着花状態であり（図3～6）、従来どおりの方法で予測しましたところ、スギは1,300個/cm²程度の総数となりました（図7）。また、ヒノキの花芽も少なめでした（図8～11）。ヒノキの予測はこの時期には困難ですが、スギ同様に平年を下回るかもしれません。2023年の夏は観測史上一番の猛暑でしたが、スギ、ヒノキともに昨シーズンに多くの花を着けましたので、今シーズンは小休止といったところでしょうか。

ところで、スギ花粉症の治療として舌下免疫療法が行われるようになり、その有効性も実感しているところですが、2023年4月に出荷制限に関する通知が製薬会社から医療機関に届きました。想定を大幅に上回る注文が継続しており、今後もこの状況が継続した場合、維持量の安定供給に支障をきたす可能性が否定できず、既に服用されている患者さんへの供給ができなくなるおそれがあることから、新規の患者さんを制限するために、導入量の製剤を出荷制限するというものです。この通知により、当院でも新規の開始を控えており、患者さんにはご迷惑をおかけしています。11月に製薬会社に確認したところ、状況は改善しておらず、引き続き配慮願いたいとのことでした。

昨今の去痰剤や鎮咳剤等が足りない問題とは状況が異なりますが、処方したい薬剤を処方できず、医療機関が患者さんに事情を説明し理解を求めなければならないことには変わりありません。1日も早い改善を願っております。

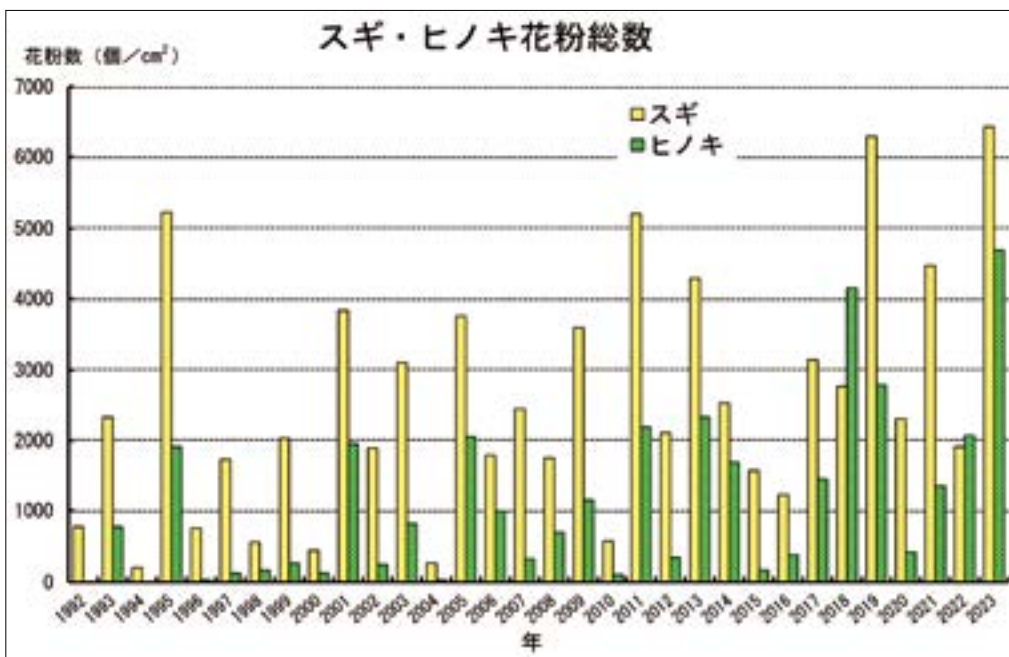


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数

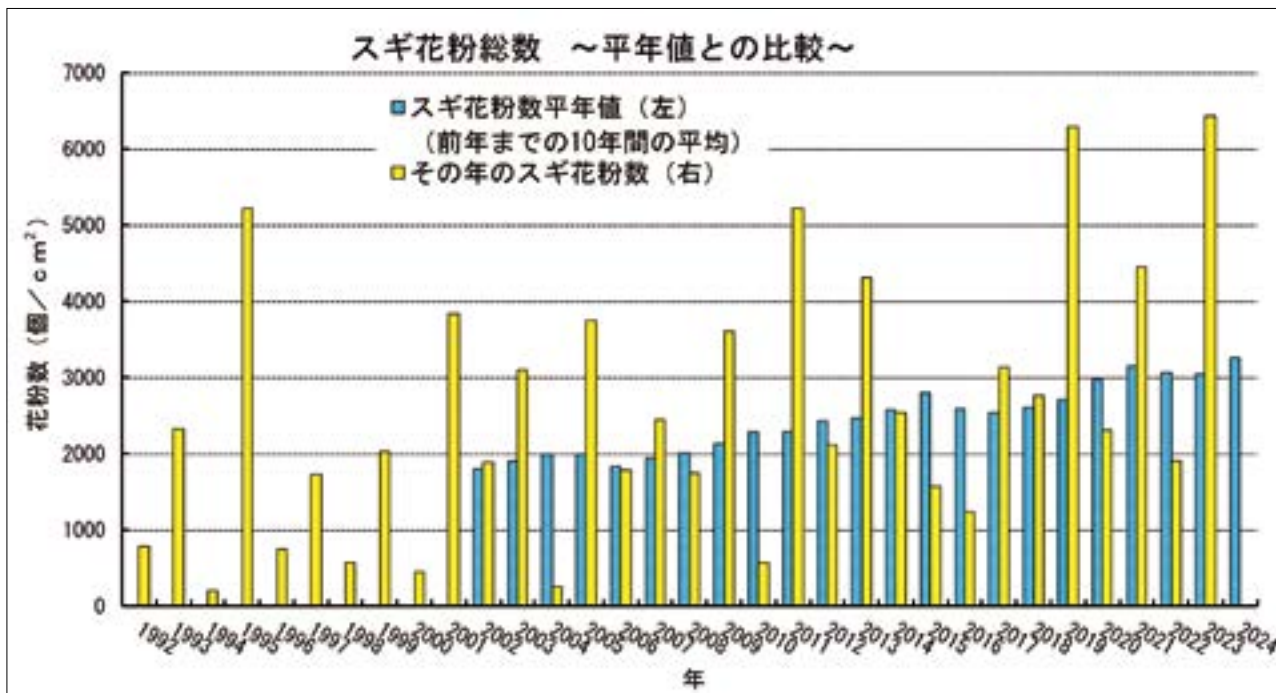


図2 スギ花粉総数と各シーズン前の平年値



図3 km 地点のスギ (2022 年秋)



図4 km 地点のスギ (2023 年秋)



図5 mt 地点のスギ (2022 年秋)



図6 mt 地点のスギ (2023 年秋)

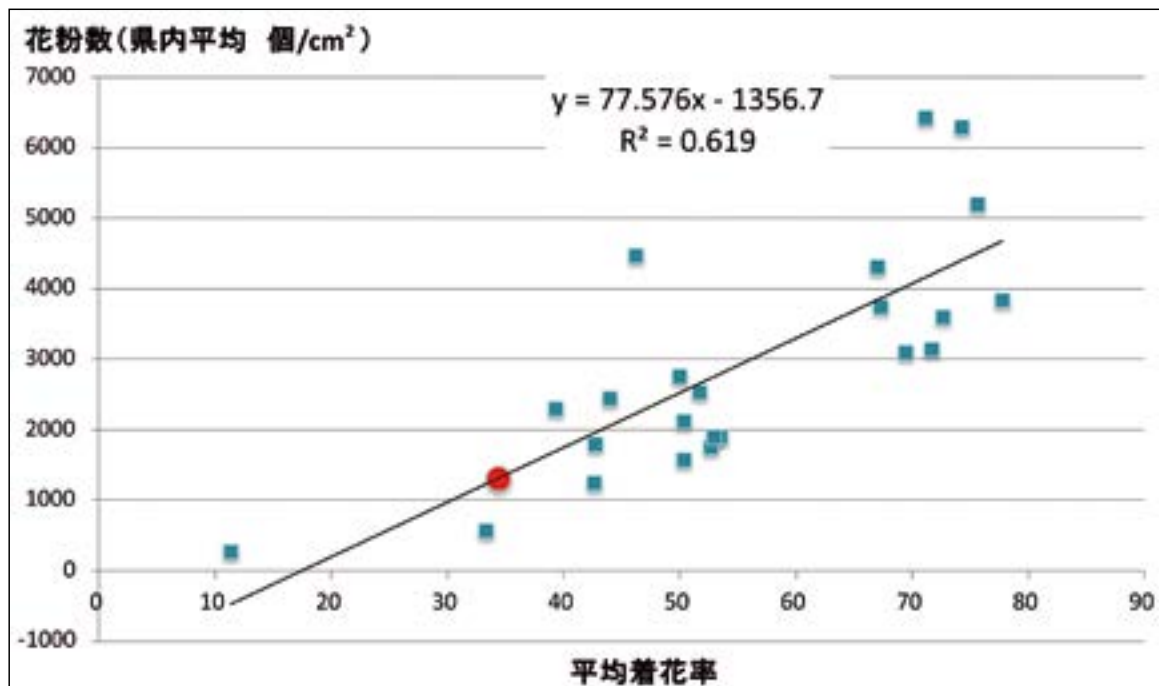


図7 スギ雄花の着花率とスギ総数の回帰式による予測 (2024年)

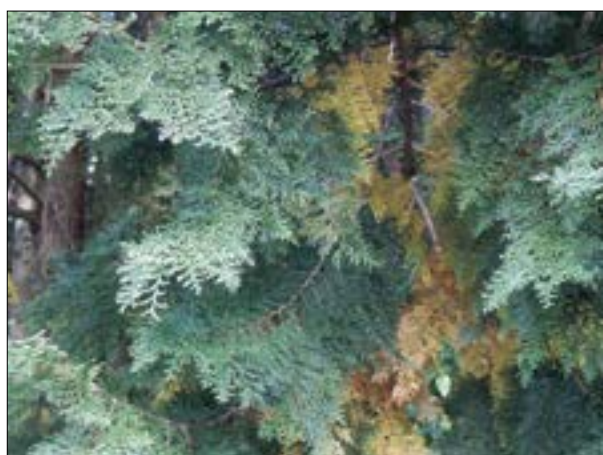


図8 mt地点のヒノキ (2022年秋)



図9 mt地点のヒノキ (2023年秋)



図10 okg地点のヒノキ (2022年秋)



図11 okg地点のヒノキ (2023年秋)